

JSAPD オープンセミナー 2016年1月10日 虎ノ門ヒルズ

テーマ「エビデンスを超えるもの」

演題 20年を振り返って：JSAPDに期待すること

演者 岩田健男

米国歯科大学院同窓会元会長、東京都小金井市開業、
デンタルヘルス・アソシエート代表、明海大学歯学部臨床教授

講演抄録

JSAPDは、非公式には1989年に保母須彌也、船越栄次らを中心に、米国歯科大学院を卒業して博士号を取得した日本人歯科医師の知識と技術を日本の歯科医療に反映すべきであろうという趣旨で、同好会的に設立された。当時の会員は、米国で補綴治療や歯周病治療などの「北米型修復治療」を学び、日本で各分野のオピニオンリーダーとして活躍していた。

1994年に公式にJSAPDの会則整備と役員任命、会員名簿の発行が実現した。藤本順平、酒井邦明、岩田健男、伊藤公一、加治初彦らが役員に就き、会員数も40名以上に増えるなか、JSAPDの叡智を世に問う試みとして、発足当初から実施していたクローズド・セミナー（新入会員紹介とパネルディスカッション）に加えて、オープン・セミナー（会員による一般公開の講演会）が開催されるようになり、今日に至っている。また、会員各位の米国歯科大学院との人脈を生かすべく、留学を希望する日本人歯科医師の橋渡しになる組織としても活動を広げた。その間、米国だけでなく、欧州でも新しい歯科医療を大学院で学んだ日本人歯科医師も増え、会員として参画してもらうことでJSAPDの新しい血潮になってきた。そして、この段階で、「米国型歯科医療」と「欧州型歯科医療」の癒合が生じ、1990年代から現在に至る日本の先端歯科医療を導く役割を少なからず果たしてきた。

欧米の歯科大学院という修羅場で研鑽を積んだエリート集団であるJSAPDが、これからも日本の歯科界に元気を与えるには、歯科医療の「グローバルスタンダード（世界基準）」と「パラダイムシフト（システムの変革）」を歯科界に啓蒙を続けることが重要であり、会員各位はそうした使命感を担って欲しい。卒後研修や出版物による発信は有効である。日本の若き歯科医師、歯科技工士、歯科衛生士は歯科界の護送船団の乗組員ではなく、将来の光明となるべく教育されねばならない。JSAPD会員の活躍に期待している。